

平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26330353

研究課題名(和文)ビッグデータの分析によるソーシャルメディアを利用した育児支援の方策に関する研究

研究課題名(英文) Research on the policy of the childcare support using the social media by analysis of big data

研究代表者

井田 歩美 (Ida, Ayumi)

関西福祉大学・看護学部・准教授

研究者番号：70549203

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、乳幼児を育てる母親の育児情報ニーズを可視化することである。研究対象は、6歳までの乳幼児をもつ母親が日本最大級の女性限定口コミサイト上で発言した内容約700,000件である。サイトでの発言内容を分析した結果、母親の育児情報ニーズは、子どもの成長発達により特徴があり、同年齢の子どもをもつ母親の体験談や意見を聞きたいというニーズが明らかとなった。情報の質を見極め、必要なものを選択し、自己の意思決定につなげられるためのヘルスリテラシーを高めることが重要である。育児支援に関わる専門職者として、インターネット上のコミュニティの存在を理解し、関心をもつ必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose was to visualize the child care information needs of mothers with young children. The study utilized the content of 700,000 comments posted by women with children up to six years of age on Japan's largest women-only web forum. The results of our analysis on the site's comments clarified their child care needs. It is important to increase the health literacy and enable mothers to assess the quality of child care information and select what they need as this allows for better development in child-rearing behavior. It was suggested to us, as professionals involved in child care support, that it is necessary to start utilizing communities of mothers on the Internet to provide effective child-rearing assistance.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：ソーシャルメディア 乳幼児 育児情報

1. 研究開始当初の背景

我が国におけるインターネット利用普及率は2012年末で79.5%(利用者数は9,652万人)となり、なかでもブログとSNS(ソーシャルネットワークサービス)利用の拡大は著明である。インターネット上には、全世界で日々ブルーディスク10億枚分のデータが蓄積され続けており、これらビッグデータを分析することにより、客観的な根拠に基づく対象者ニーズをとらえることが可能となった。しかし、未だ看護研究領域において、ビッグデータを研究データとして活用することは希少である。

近年、核家族や地域連帯感の希薄による育児の孤立、女性の就労増加、母親の価値観の多様性により育児ニーズは変化している。一方で、我が国の少子化は進展の一途であり、育児不安を訴える母親、育児ノイローゼに陥る母親、さらには児童虐待も増加している(厚生労働省, 2010)。

乳幼児期の育児において、母親は、母乳を継続するか否か、離乳食をいつ開始するか等、日々多くの意思決定を繰り返している。意思決定には多くの情報収集を必要とするが、情報には客観的情報としてのエビデンスだけでなく、他の人はどうしているのかという情報も必要である(中山, 2011)。育児中の母親にとって、同じような子どもをもつ母親の意見は、信頼できる情報であると同時に自分の行っている育児方法を確認する手段のひとつでもある。

育児に関する情報は、かつては近親者や近所の人々を通じ入手されるものであった。しかし、時代の変遷とともに、1980年代頃からは育児雑誌が情報源となり(天童, 2002)、さらに2000年頃より情報の入手先はインターネットが主流となってきた(丹羽, 1999, ベネッセ, 2007)。自宅に居ながら好きな時間にアクセスできるインターネットは、育児期の母親にとって利便性に優れたものといえる。2010年3月に行った実態調査(井田ら, 2011)において、育児に関する情報収集や意見交換のためにインターネットを利用している母親は約8割であった。また、育児の相談を「近所の人」「育児サークルの仲間」にしない母親は、有意にインターネットを利用していることがわかった。さらに、ソーシャルメディア上のコミュニティは、育児中の母親の新しい情報収集、意見交換の場としての地位を得ているだけでなく、友達づくりのきっかけにしていたり、発言に対するレスポンスをすることで、他者の役に立っているという自己の存在意義を認識する場となっている(井田ら, 2011)。

このように、育児中の母親においてもインターネットを利用した情報収集や意見交換は、現在では重要なスキルであり、特に、育児サポートとしての、「情緒的サポート」「相談的サポート」となり得る可能性を秘め(中野, 1999, 小林, 2004)、健全な育児行動へ

とつながる。

以上の背景をふまえ、現在、母親は育児において何に不安や疑問を感じ、インターネットを利用して情報収集を行うのかを明らかにするため、ソーシャルメディア上のコミュニティに発言された内容の分析を行った。そこには、普段のごく日常的な様子が、本人の飾らない言葉で語られており、日々感じた自分や子どもの健康状態やライフスタイルなど直接面と向かっては言いにくいことも多く書き込まれている。内容は、疑問、不安など教えて欲しいこと、夫や姑の愚痴など聞いて欲しいことや、何となく誰かにつぶやきたい内容に分けられる。中でも教えて欲しい内容は児の成長発達の段階により特徴がみられた(井田ら, 2013)。

インターネット普及率は頭打ちに近いと思われるが、スマートフォンの普及などインターネット技術の革新は未だ目覚ましい。このような状況から、今後はよりインターネット利用の活発な若年層が母親となっていくため、ソーシャルメディアを利用した人とのつながりも拡大すると考える。結果、育児に関する情報収集や意見交換がソーシャルメディアに移行することも予測される。

一方で、数十万件のデータから導き出された乳幼児の母親の行動特性は、既存の育児相談内容を見直すための布石となり、ソーシャルメディアを効果的に利用した具体的な育児支援の方策を見出すことにつながる。

2. 研究の目的

本研究では、ソーシャルメディア上の膨大な発言内容を分析し、乳幼児をもつ母親の行動特性を明らかにする。さらに、既存の育児相談内容を見直すことで、ソーシャルメディアを効果的に利用した具体的な育児支援の方策につながる。

3. 研究の方法

株式会社ベネッセコーポレーションが管理・運営するウィメンズパーク内にある7つの会議室のうち、7~12ヵ月児ママの部屋(発言数109千件)、1歳児ママの部屋(発言数139千件)、2歳児ママの部屋(発言数75千件)、3歳児ママの部屋(発言数59千件)4つの会議室ごとの母親が発言した内容の分析を行った。

研究方法の詳細は以下に示す。

1) 研究デザイン

ソーシャルメディア上コミュニティにおける発言内容のテキストマイニング分析

2) データの収集方法

2011年4月~2012年3月における、株式会社ベネッセコーポレーションが管理・運営するウィメンズパーク内会議室での発言内容をデータとした。データは、すでに株式会社ベネッセコーポレーションから提供を受けている。(平成24年

5月29日付で株式会社ベネッセコーポレーションとの“情報データ提供に関する契約”を締結完了)

3) データの分析方法

(1)Microsoft Excel 2010 により、各会議室への書き込み件数をカウントし、月別、曜日別、時間帯別に分類し、アクセス状況を概観した。

(2)統計解析ソフトウェア IBM SPSS Statistics により、1)のデータをクロス集計し、クロスしたデータ(変数)間有意差があるか検証した。

(3)日本語解析エンジン TM Studio: Text Mining Studio4.2 により、分かち書きと係り受けと自動連結の前処理後、以下の手順で分析を行った。

基本情報の確認

分析を行うテキストの行数、延べ単語数などの基本情報を集計する。

単語頻度分析

どのような単語が何回出現するかをカウントすることで、母親の疑問、不安をはじめとする関心事が概観した。係り受け頻度分析

主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、補助の関係、並立の関係というような文章の中で単語と単語がどのようにつながっているかを分析した。

4) 倫理的配慮

(1)本研究は、岡山大学大学院保健学研究科看護学分野倫理審査委員会での審査(審査整理番号: D11-12)を受け、十分な倫理的配慮のもと実施した。

(2)データとするソーシャルメディア上の電子掲示板は、『ウィメンズパーク』内の会議室とした。『ウィメンズパーク』とは、株式会社ベネッセコーポレーションが管理・運営する会員数410万人超(2013年1月末時点)の日本最大級女性限定の口コミサイトであり、妊娠から育児まで32の会議室を開設している。会員は入会時に、会員規約および会員の個人情報の取り扱いに関する規約を読み、「会員から情報を公開したくないとの意思表示があれば、情報は公開しないこと、情報を削除すること」が可能であり、「会員の個人情報や利用に関して、個人が特定できない資料とした上で情報を集計・分析すること」に関して承諾した上で入会するといった厳重なシステムをふんでいる。

(3)母親の育児に関する発言内容の分析は、個人情報の範疇に該当しないよう、日本語解析エンジンを使用して、個人の特定できない単語として切片化した上で分析を行った。

4. 研究成果

1) 乳児を育てる母親の育児情報ニーズ
乳児を育てる母親のソーシャルメディ

ア上の育児に関する発言状況を分析した結果、1年間延べ34万件超の発言があった。母親達がソーシャルメディアを利用する曜日は平日が多く、家事や育児の空き時間を利用してアクセスしていた。母親は児の月齢、性別、出生順位などの自己紹介から発言を始め、育児への疑問や不安、思いや本音などを語っていた。育児情報ニーズは、子どもの生命に直結する栄養や予防接種に関するものに対して高く、同時に自分と同月齢の子どもをもつ母親からのリアリティあふれた発言を求めていることが明らかとなった。また、ソーシャルメディアでの発言は、母親が育児情報を得るための身近な手段のひとつとして大きな役割を果たしていることが明らかとなった。このような現状を把握した上で、適切な支援を考える必要性が示唆された。

2) 2,3歳児を育てる母親の育児情報ニーズ
2歳児をもつ母親はトイレトレーニングおよび言語発達に関連したこと、3歳児をもつ母親は幼稚園や保育園およびトイレトレーニングに関連した情報を求めていることが明らかとなった。今後は母親が育児情報の質を取捨選択し、意思決定できるためのヘルスリテラシー向上のための支援の重要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

井田歩美, 猪下光, 1歳未満の児をもつ母親のソーシャルメディア上における育児に関する発言の実態 - 延べ34万件の分析, ヒューマンケア研究学会誌, 査読あり, 5(2), 2014, 7-13

井田歩美, 猪下光, 乳児をもつ母親の予防接種に関する疑問や不安 - ソーシャルメディアにおける発言のテキストマイニングによる分析 -, 母性衛生, 査読あり, 55(2), 2014, 471-478

井田歩美, 猪下光, 乳児をもつ母親の育児情報ニーズ - ソーシャルメディア上における発言の分析, ヒューマンケア研究学会誌, 査読あり, 6(1), 2014, 17-23

井田歩美, 猪下光, 1歳児をもつ母親の離乳に関連した育児情報ニーズ - ソーシャルメディア上における発言の分析, ヒューマンケア研究学会誌, 査読あり, 7(1), 2015, 21-27

井田歩美, 『スマホ世代に向けた育児情報の伝え方』ソーシャルメディアでの発言内容から見えてくる1歳未満の子どもをもつ母親の育児情報ニーズ, 月刊「母子保健」, 査読なし, 通巻679号, 2015, 4-5

井田歩美, 猪下光, 2,3 歳児をもつ母親の育児情報ニーズ-ソーシャルメディアにおける発言の分析-, ヒューマンケア研究学会誌, 査読あり, 8(1), 2016, 71-78

(2)研究分担者

猪下 光 (Inoshita Hikari)
岡山大学大学院保健学研究科・教授
研究者番号: 30223291

[学会発表](計9件)

井田歩美, 猪下光, 乳児の母親がソーシャルメディア上に発言した愚痴の分析 - 夫に焦点をあてて -, 日本家族看護学会第21回学術集会(於川崎医療福祉大学), 平成26年8月10日

井田歩美, 猪下光, 産褥入院中の母親がソーシャルメディアでの情報交換を求める要因の検討, 第55回日本母性衛生学会(於幕張メッセ国際会議場), 平成26年9月13日

井田歩美, 猪下光, ソーシャルメディア上における乳児中・後期の児をもつ母親の育児情報ニーズ - 離乳食を中心に -, 第34回日本看護科学学会学術集(於名古屋国際会議場), 平成26年11月29日

井田歩美, 猪下光, ソーシャルメディアにおける発言内容の分析による1歳児をもつ母親の育児情報ニーズ, 第62回日本小児保健協会学術集会(於長崎ブリックホール), 平成27年6月19日

井田歩美, 猪下光, Information Pregnant Women Want to Know From Infants' Mothers -Analysis of Comments on Social Network Services-, 第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会(於パシフィコ横浜), 平成27年7月21日

井田歩美, 猪下光, ソーシャルメディアにおける発言内容の分析による2歳児をもつ母親の育児情報ニーズ, 第55回日本母性衛生学会(於岩手県民交流センター「アイーナ」), 平成27年10月17日

井田歩美, 猪下光, ソーシャルメディアにおける発言内容の分析による3歳児をもつ母親の育児情報ニーズ, 第35回日本看護科学学会学術集(於広島国際会議場), 平成27年12月5日

井田歩美, 猪下光, 美甘祥子, ソーシャルメディアによる意見交換が及ぼす乳児をもつ母親の育児への効果, 第56回日本母性衛生学会(於品川プリンスホテル), 平成28年10月15日

Ayumi Ida, Shoko Mikamo, Visualization of Child Care Information Needs of Mothers with Infants - Comments' Analysis on Japan's Largest Website -, 31ST ICM Triennial Congress in TORONTO, CANADA, 平成29年6月18~22日

6. 研究組織

(1)研究代表者

井田 歩美 (Ida Ayumi)
関西福祉大学・看護学部・准教授
研究者番号: 70549203